

平成22年度 学校評価表

<p>ミッション</p>	<p>未来を見つめ、 夢の実現に一步ずつ！</p>	<p>ビジョン</p>	<p>○ 生徒一人一人が、明るく創造的で生き生きと活動する学校 ○ 教職員の叡智が結集された学校 ○ 地域・保護者の信頼に応えることのできる、開かれた学校</p>	<p>尾道市立高西中学校</p>
--------------	-------------------------------	-------------	---	------------------

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	7月	1月	達成度%	評価	結果と課題の説明	二次評価			コメント	改善案	
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ			
<p>確かな学力の育成</p>	<p>基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上</p>	<p>教師一人一教育研究による授業改善の推進</p>	生徒意識調査授業満足度80%以上	80%	56	77	96	B	<p>・生徒意識調査「授業に満足している」において、1年73%、2年69%、3年91%が肯定的な回答をしている。全体は、7月の達成値と比べると21ポイント増加しているが、1・2年生の満足度は低い。3年生は、進路決定に向けて意識が高まり、授業に集中していることが伺える。引き続き、教育研究テーマに沿った研修を進めていく。 ・2学期末において、20人の教師が研究授業をおこない、授業改善の研修をおこなった。3学期には、教師一人一教育研究のまとめと研修を行い、研修を深める。 ・全国、県の調査については、どの教科も平均より低い結果になっている。とくに、国語の「聞くこと」「書くこと」の問題の正答率（通過率）が低く、課題がある。他の教科でも、資料やグラフからわかることを読み取ったり、自分の考えをまとめて書く問題の正答率が低く、「聞くこと、読み取ること」「まとめること、書くこと」に課題があると考えられる。授業中はもちろんのこと、ふだんの生活でも、考えたり書いてまとめる習慣を定着させたい。</p>	3			<p>・全体的に数値が上昇しており、概ね評価できる。2年生が他学年と比べ割合が低いのが課題。3年生に向け目標を立て努力をさせることを望む。 ・研究授業は、特に若い先生方がベテラン教師の技術を学べる研修及び学級経営の研修に重点をおいてほしい。 ・意欲の向上がはっきりと現れている。 ・ドリル学習等に高校入試の過去問等の取り入れ等工夫があり、評価できる。目標の決定とやる気を今後も引き出す工夫をしてほしい。 ・家庭学習時間についても学習習慣を付けさせることと各教科ごとの自主学習方法も先生方の経験をもとに教える等の工夫をお願いしたい。自主学習ノートのやり方もわかっているのか気になる。</p>	<p>・学力検査における平均正答率の向上に向け、課題を分析し、PDCAサイクルに基づいた改善計画を実施していく。 ・研究授業を一人1回以上実施し、授業改善を図ると共に、教育財産を継承していく。（教師一人一教育研究等） ・言語活動の充実を図り、基礎・基本の力と活用する力をつけていく。 ・ドリル学習については、教材を見直す。（3年間系統的に学習できるもの） ・「学習のてびき」等を利用し家庭学習の方法を示し、学年ごとの目標時間を決めて習慣化させ、家庭学習の充実を図る。</p>	
			研究授業の実施（1人1回以上）	100%	61	95	95	B		3					
			諸調査の県・全国平均通過率に対する比較。（県・全国通過率を100としたとき。） 【全国学力・学習状況調査、「基礎・基本」定着状況調査・尾道市学力調査、本校実力テスト】	100%	市100 全国96.5	市100 96.5	97	B		2	1				
			ドリル学習の実施	生徒の個人目標の達成率	100%	71	76	76		C	3				
	家庭学習の定着	家庭学習を定着させる指導の工夫 自主学習ノート（復習ノート）の活用	家庭学習時間調査 課題提出状況調査提出率80%以上	80%	81	75	94	B	3						
<p>豊かな心の育成</p>	<p>規範意識の更なる高揚 ～高西中文化の創造～</p>	<p>TT指導を生かした指導の工夫 体験活動を生かした道徳の時間の組み立て</p>	生徒の道徳授業満足度70%以上	70%	78	71	100	A	<p>・「道徳の授業では、自分自身を振り返ったり、学ぶ事はありますか。」という生徒アンケートの結果から、1年69%、2年71%、3年76%が肯定的な回答をした。TTで授業を進めることや生徒の活動を通して学ぶ事は効果があった。しかし、道徳的な価値をどう学ばせるかは、教師が生徒の意見をどう引き出していけるかにかかっており今後の課題である。 ・授業開始と終了の挨拶については、生活部の活動と共に意識化はできたが、普段自分の判断で気持ちよい挨拶をかわせるように取り組む必要がある。 ・ヘル前着席の意識化はできている。ヘル前に学習の準備をしBeruと同時に授業が始まる体勢を教師側が意識して取り組む必要がある。 ・生徒は、整頓している意識はしているが教師側は、より高いレベルで指導する必要がある。 ・Q-Uによるアンケートから「校内には気軽に話ができる先生がいる。」という質問に対して肯定的な回答は1学期よりも増し59.8%と向上した。しかし、「校内には気軽に話ができる先生がいる。」16.1%、全国平均よりも低い数値で今後の課題である。教師が面談等による進路の指導や部活動の指導を通しての人間関係を築く事も必要である。 ・現在16日～29日の欠席者が13名いる。その中から不登校傾向にある生徒に対する取組を個別支援計画で確認していく。 ・体育大会では、多くの生徒が積極的に練習から参加できているが、一部の生徒が消極的であった。文化祭では、それぞれの役はあるが、力が入らない生徒もいる。体育大会や文化祭において、消極的な生徒への働きかけが大切である。生徒主体であることや目的意識を持たせていきたい。</p>	3			<p>・多感な中学時代において豊かな心を育てるという点で道徳教育は重要である。価値観は多様であるが教師全員が共通の価値観をもって今後も取り組んでほしい。先生方の工夫が見える。 ・挨拶・時間厳守等生活の基本ともいえる習慣は概ね定着しているが服装の乱れが気になる生徒への指導を今後も望む。 ・家庭内や友人に話せない相談を先生に話すことが心のケアとしてストレス解消になる。クラス担任のみならず、部活動顧問、管理職も含め頼れる先生としての存在をめざしてほしい。 ・不登校生徒の半減は評価できる。今後ともカウンセリング等の充実を図る。 ・体育大会、文化祭を通して満足度、クラスの連帯感や仲間意識の高揚は保護者からも評価されている。</p>		
			生徒の意識調査80%以上	80%	挨拶88 時間92 整理92	挨拶85 時間95 整理93	100	A		3					
			「先生は生徒の話を聞いてくれる」生徒評価75%以上	75%	50	59.8	80	C		2	1				
			不登校生徒の減少（前年度13人）	半減	2	5	100	A		3					
			感動体験につながる諸行事の充実	達成感のある体育大会、文化祭の実施	生徒の意識調査満足度95%以上	95%		90		90	B	3			
<p>健やかな体の育成</p>	<p>逞しい心と身体の育成</p>	<p>栄養士による食指導の実施 保健だより・食育だよりの発行により啓発</p>	生徒の実態調査朝食摂取率100%	100%	82	97	97	B	<p>・10月栄養士による講演会で、朝食の大切な働きについて・弁当の栄養バランスやいろいろの重要性について聞くことができた。朝食摂取率は1学期より15%アップした。今後も定期的な実態調査を行った。保健だよりや食育だよりの発行で啓発に努めたい。 ・部活動参加率は前回より7ポイント下がった。また、目標値より11ポイント下である。生徒に調査についての周知などができていなかったこと、部活動参加週間などの取り組みをできていなかった。次回の最終回は、部活動参加週間の取り組みと周知を行い、参加率を上げていきたい。 ・目標値に対して60%と、参加率が低かった。理由としては、ボランティア活動の紹介を精進したこと、また、参加頻度に課題が見えてきた。募集の際に参加条件を厳しくしたことが考えられる。ボランティア活動や地域行事への参加意識について生徒に考えさせる取組を行い、積極的かつ意欲的に取り組める生徒を育成していく必要がある。 ・アンケート調査の結果、69.2%の保護者が満足であると答えている。7月調査より3.7%肯定的評価が下がったことを踏まえ、保護者にわかりやすい情報の発信に努めることにもプリントを持ち帰らない生徒の実態調査と指導を加えていく必要がある。 ・HPの更新・学年だよりの毎月の発行は、実施できた。学校だよりの発行が毎月出来ていない。定期的な発行と内容の充実を図る必要がある。</p>	3			<p>・食育の講演会等を通して、生徒・保護者への働きかけにより、朝食の摂取率が改善したことは評価できる。 ・啓発活動の推進（授業、講演会、保健だより） ・部活動の活動方針、部停止などの規約を見直し、改善していく。 ・部活動を通してリーダーの育成と自律できる集団づくりのための指導を実施する。</p>		
			活動状況調査	75%	71	64	85	B		2	1				
			新体力テスト結果（前年度27項目県平均を上回る）10%UP	32項目	39項目		100	A		3					
<p>信頼される学校</p>	<p>開かれた学校づくりの推進</p>	<p>地域行事やボランティア活動への積極的な参加</p>	回数、参加率（前年度比7%アップ）	90%	5%	60%	60%	C	<p>・地域、社会貢献の取組は評価できる。今後はボランティアの意義と共に楽しいボランティアのみならず、苦勞するボランティア活動への参加の機会も増やしてほしい。 ・参加して良かったことを中間に伝えるなど興味を持たせる工夫もする。 ・学校と地域との連携はとれている。 ・たより等の情報が家庭に届く方法を考える。</p>	3			<p>・今後とも地域へ目を向けさせ、ボランティア活動に関する情報の積極的発信と社会貢献ができる生徒の育成をめざし取り組む。 ・信頼される学校づくりをめざし、わかりやすい情報発信を行う。たより等持ち帰らない生徒への指導を工夫する。</p>		
			学校の情報の計画的な発信	HPの定期的更新及び学校・学年だよりの定期的発行	保護者満足度70%以上	70%	73	69		99	B	3			
			毎月更新・毎月発行	100%	90	90	90	B		3					